

文化庁長官 都倉 俊一 様

世界文化遺産暫定一覧表への追加記載に関する要望

近世の日本は、世界史でも稀にみる「平和社会」であり、法や制度が整備されるとともに、現在まで続く様々な伝統文化が花開きました。こうした社会を支えたのは、官立・官営学校、藩校、郷校、私塾・寺子屋など、全国各地に置かれた多くの教育資産です。人々は身分に関係なく教育資産で多くの知識と教養を学び、社会が発展・安定して、さらに学びを求めるという好循環が生まれました。当時日本を訪れた諸外国の人々は、近世日本人の教育水準の高さや礼儀正しさを高く評価しています。

弘道館・偕楽園（茨城県水戸市）、足利学校（栃木県足利市）、閑谷学校（岡山県備前市）、^{かんぎえん}咸宜園・豆田町（大分県日田市）は近世日本の教育資産の代表的な存在であり、各資産を有する4県4市が連携して「近世日本の教育遺産群」の学術的な研究を進め、このたび「世界遺産暫定一覧表記載資産候補提案書概要英訳版」をとりまとめました。

近世日本の教育資産の価値を理解し、学問・教育の大切さを次世代に伝えていくことは、我が国のみならず、世界の人々にとっても大きな意義を持ちます。特に、身分に関係なく人々が学ぶことができた環境は「国際連合教育科学文化機関憲章(ユネスコ憲章)」に合致し、21世紀の世界教育のあり方を考える大きな指標になると確信しております。

つきましては、「近世日本の教育遺産群」の世界遺産暫定一覧表への追加記載について、特段の御配慮をお願い申し上げます。

令和5年2月7日

教育遺産世界遺産登録推進協議会

会長 水戸市長 高橋 靖

副会長 足利市長 早川 尚秀

副会長 備前市長 吉村 武司

副会長 日田市長 原田 啓介

